

# 助詞「が」と「を」の研究

## —「水が飲みたい」と「水を飲みたい」から—

岡田 佳美

### 1. はじめに

「水が飲みたい」と「水を飲みたい」という文は、ほぼ同じ意味である。両者の間で助詞「が」と「を」を入れ替えても、文の意味はほとんど変わらない。本稿ではこのような場合を、助詞「が」と「を」に交替性がある、と言うことにする。例えば「花が美しい」のような文の場合、「花を美しい」とは言えないため、助詞「が」と「を」の交替性はない。多くの場合、助詞「が」と「を」に交替性はないと考えられる。つまり、同じ助詞「が」と「を」でも、交替性がある場合と無い場合があるということである。では、何故助詞「が」と「を」は交替するのだろうか。また、交替しやすい場合としにくい場合があるのだろうか。本稿では、特に「水が飲みたい」すなわち「…が～たい」（以下「ガ型」と呼ぶ）と「水を飲みたい」すなわち「…を～たい」（以下「ヲ型」と呼ぶ）の形に絞った。助詞「が」と「を」が交替しやすい場合としにくい場合について考えるため、ガ型・ヲ型の実際の使用例として国会での発言に注目し、一般の意識を調べるためのアンケート調査を行った。

### 2. 先行研究

「水が飲みたい」と「水を飲みたい」についての議論は次のように変移している。始めは、「水が飲みたい」の「水が」は主語であるのかについて論じられていた。「「水が」は主語である」という立場を取っているのは、三矢 (1926)・吉澤 (1932)・橋本 (1938)、「「水が」は主語でない」という立場を取っているのは、木枝 (1931)である。さらに同じ時期に、ガ型・ヲ型のどちらが正しいかについても論じられていた。先の吉澤(1932)はガ型が正しいとしている。保科氏は、助詞「を」を使うべき例として「水水ガ飲ミタイ。(保科 1924:237)」と挙げているため、ヲ型が正しいとしていたことが考えられる。吉岡氏は助詞「が」の使われる一種の慣用として、「水が飲みたい。(吉岡 1924:137)」を挙げているが、ガ型とヲ型のどちらが正しいかに言及していない。また、湯沢(1944)のように、ヲ型も認めるべきという中間的立場もある。松村(1951)が、ガ型・ヲ型の問題は、どちらが正しいかではなく、どのように使われているかである、と指摘したことで、これ以降の研究はガ型・ヲ型の使い分けについての議論が盛んになった。

(2)

学校教育の場では、文法の教科書にガ型・ヲ型のどちらが正しいか、あるいはどちらを用いるべきかについて言及した部分は戦中・戦後のどちらにもない(文部省 1944a、1947、三省堂編輯所 1948a)。ただし、教師用の指導書・参考書では、戦中・戦後ともにガ型が正しいとされている(文部省 1944b、三省堂編輯所 1948b)。

また、ガ型・ヲ型がどのように考えられているかについては、1955年に国立国語研究所が行った調査<sup>1</sup>が詳しい。この調査は語形確定のための調査であり、言語・外国語研究者、国語教育関係者など 300 人を対象に行われた。その結果は以下の通りである。

A 水が飲みたい・B 水を飲みたい 回答数 181

〔採る形〕A 形が多数。第 1 回調査でも同じ。

〔理由〕A 形——一般的 45%，本来の日本語調 35%，伝統的 24%，増加の傾向・規範に合う各 11% B 形——論理的 23%，増加の傾向 10% (翻訳調 26%)

(「増加の傾向」「伝統的」「本来の日本語調」「翻訳調」「論理的」がそれぞれ多く出たことが特徴的。) (国立国語研究所 1956:85)

すなわちこの調査対象者の間では、ガ型が正しいと考えられていたことが分かる。

ただし、学校教育の場でガ型が正しいとされていることと国立国語研究所の調査結果とに依拠して、「広くガ型が正しいと考えられている」と結論付けることは早計だと思われる。どちらも場面や対象が限られているからである。また、国立国語研究所の調査結果では若年層ほどヲ型が多いと報告されている。この調査は 50 年以上前に行われたものであるから、現在とは結果が異なると予測される。

以上のことから、今回は対象を広く一般にし、ガ型・ヲ型の実態とガ型・ヲ型に対する意識を知るための調査を行う。具体的には国会での発言の調査とアンケート調査を行う。

### 3. 国会での発言

話し言葉の調査資料として、国立国会図書館が編集したデータベース「国会会議録検索システム」<sup>2</sup>を利用する。国会会議録を話し言葉の資料として利用することについて、「国会会議録は確かに国会という限定された場における談話を収めた資料だが、すべての談話が場の限定の中で生起していることを考え合わせるならば、国会会議録を特殊なものとして談話分析から排除する理由はどこにも見あたらない」(松田 2008:27)という指摘がある。また、このデータベースでは、「整文」という字句の整理作業がなされていることがあるが、「フォーマルな言葉としての会議録という一般的な印象と裏腹に、極めて自然談話に近い特徴が見られることも事実である」(松田 2008:57)。つまり、整文がなされても、自然な発話に近い資料と

して扱うことに問題はないと言える。よって、このデータベースは、話し言葉の調査対象として有効であると言える。

### 3. 1. 用例

国立国会図書館が編集したデータベース「国会会議録検索システム」を基に、期間は2010年11月1日から2011年11月30日までとし、助動詞「たい」で検索をした。その結果、ヲ型は3558例(99.7%)、ガ型が11例(0.31%)の合計3569例であった。なお、検索対象は「たい」の形のみである。その理由は、「たい」の形だけでも多くのサンプルが得られたからであり、また、調査の過程で、「たい」以外の活用形でもガ型・ヲ型の割合は変化しないと判断したためである。

例の挙げ方は、「発言内容」(発言の月日 発言した会議 発言者)とする。以下にガ型の11例のうち5例を例として挙げる。なお、下線・二重下線・波線は引用者による。

- (1) 「温家宝さんと会って話がしたい、」(11/1 予算委員会 赤松正雄)
- (2) 「何が言いたいか」といって、法務大臣、これは民主的な基礎を有するか否かという問題なのですよ。」(11/8 予算委員会 石破茂)
- (3) 「何が言いたいか」といって、海上保安官の名前ですか、あるいは名誉や人権を害するような部分が衆議院予算委員会に提出されたビデオの中にそもそもない。」(11/11 法務委員会 桜内文城)
- (4) 「何が申し上げたいかって、まあ余り長い時間を取っても恐縮ですからまた何かのゆっくりしたときにあれしますけれども、」(11/22 予算委員会 菅直人)
- (5) 「何が言いたいか」といって、」(11/26 環境委員会 橋本博明)

以上の5例のガ型について、動詞と助詞の対応に規則性があるかを検証する。

A: 〈「名詞」(ヲ型での使用例があったもの) + 「たい」〉…(1)

- (6) 「みんながいろいろと柳田と話をしたいということでございましたので、」(11/18 予算委員会 柳田稔)

B: 〈「何」 + 「言いたい」〉…(2)・(3)・(5)

- (7) 私が何を言いたいかという、戦略的互惠という、この中国が使う言葉というのは、今現在、私が承知している限りでは、日本を含めて三十六カ国あります。(11/1 予算委員会 赤松正雄)

C: 〈「申し上げたい」〉…(4)

- (8) 「この看護職員の確保対策であります、幾つか取組を申し上げたいと思うんですが、」(11/16 厚生労働委員会 大谷泰夫参考人)

(4)

以上のように、(1)から(5)のガ型の表現に対応するヲ型の表現(6)～(8)が存在する。これはガ型 11 例の内ここに挙げなかった他の 6 例も同様である。よって、「この動詞だから必ずガ型になる」という規則性はないと考えられる。

ただし、(2)・(3)・(5)のように、「何」と「言いたい」を結ぶ助詞は、「が」が多い。検証に用いた赤松氏の発言も、先に「私が」と述べているため、ここでガ型を選ぶことを避けた可能性がある。この赤松氏の発言以外には、「何を言いたい」という表現は見つからなかった。また、(4)の「何が申し上げたい」については、「何を申し上げたい」というヲ型の表現は見つからなかった。このことから、「何」という語に、「言う」・「言う」の謙譲語「申し上げる」という言葉が続く場合、ガ型が用いられやすいと考えられる。

結果として、国会での発言は圧倒的にヲ型が優勢であった。もちろんこれらの発言を文字化するうえで整文が行われていないとは言い切れないが、それでもガ型の使用が 1%にも満たないことは見過ごしてはならない。これは、学校教育ではガ型が正しいとしていることと矛盾している。なぜこのようにヲ型優勢の結果が出たのであろうか。先に述べたが、国立国語研究所の調査では、年齢層が低くなるにつれてヲ型を正しいとする人が増加する傾向にあるという。国立国語研究所の調査は 1955 年に行われたものであるから、現在ではヲ型が正しいとしている人がより増加している可能性がある。

#### 4. アンケート調査

一般のガ型・ヲ型への意識を知るため、2011 年 8 月 1 日から 2011 年 10 月 13 日に、配票調査法<sup>3</sup>を用いてアンケート調査を行った。アンケートの配布対象は、三重大学の職員、学生、三重大学オープンキャンパスの来場者、筆者の家族や友人、知人である。

##### 4.1. アンケート内容

アンケートの設問は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに大別した。

Ⅰはガ型・ヲ型の文を並べ、どちらをふだん使っているか、回答者に選択してもらう形式の設問である (9 問)。Ⅱは状況設定を示し、会話文の中の丸括弧に、「が」か「を」を書き入れてもらう形式の設問である (4 問)。Ⅲは 1955 年に国立国語研究所が行った調査を踏襲した設問である。「水が飲みたい」・「水を飲みたい」のどちらが正しいと思うか、またその理由は何かを四つの選択肢から数に制限は設けず選ぶ設問である。

## 4. 2. 回答内訳<sup>4</sup>

ア) 性別年代

全体…535 (男性 235、女性 300)

10代…94 (男性 44、女性 50)、20代…169 (男性 75、女性 94)、30代…78 (男性 27、女性 51)、40代…88 (男性 34、女性 54)、50代…106 (男性 55、女性 51)

イ) 出身都道府県

北海道 4、新潟県 1、千葉県 1、埼玉県 4、東京都 6、山梨県 1、富山県 1、福井県 2、石川県 2、静岡県 4、岐阜県 11、愛知県 187、三重県 241、奈良県 23、和歌山県 2、滋賀県 4、京都府 9、大阪府 9、兵庫県 4、岡山県 1、広島県 2、鳥取県 2、佐賀県 2、熊本県 1、長崎県 3、宮崎県 3、鹿児島県 2、沖縄県 3

ウ) 居住都道府県

山梨県 2、富山県 1、静岡県 2、岐阜県 7、愛知県 149、三重県 341、奈良県 32、滋賀県 1

## 4. 3. 分析<sup>5</sup>

### 4. 3. 1. Iの集計結果

I - ① 「野球(が・を)したい。」

〈M+が・を+たい〉という最も基本的な文型の項目である。

全体(535)…ガ 472(88.2%) ヲ 52(9.7%) 両方 5(0.9%) 無回答 6(1.1%)

50代男性(55)…ガ 44(80%) ヲ 11(20%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

全体としてガ型が約9割であるが、50代男性はヲ型が20%以上である。

I - ② 「なによりケーキ(が・を)食べたい。」

〈強調の語句+M+が・を+たい〉という語順の項目である。

全体(535)…ガ 458(85.6%) ヲ 71(13.3%) 両方 3(0.6%) 無回答 3(0.6%)

20代男性(75)…ガ 58(77.3%) ヲ 17(22.6%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

40代男性(34)…ガ 23(67.6%) ヲ 11(32.4%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

全体としてガ型が多いが、20代男性ではヲ型が20%以上であり、40代男性ではヲ型が30%以上である。強調の語句「なにより」を入れることで、I - ①と比較する目的であったが、I - ①と明らかな差異はない。

I - ③ 「テスト終わりにはマンガ(が・を)思う存分読みたい。」

I - ②と語順を変えた〈M+強調の語句+が・を+たい〉という文型にすることで、I - ②との比較をするための項目である。

全体(535)…ガ 26(4.9%) ヲ 507(94.8%) 両方 1(0.2%) 無回答 1(0.2%)

(6)

全体としてヲ型が圧倒的に多い。これはⅠ-①・Ⅰ-②の結果と異なっている。

Ⅰ-④ 「ウワサ話なら何でも首(が・を)突っこみたい。」

慣用句「首を突っこむ」を含む表現の項目である。

全体(535)…ガ 2(0.4%) ヲ 531(99.3%) 両方 1(0.2%) 無回答 1(0.2%)

全体としてヲ型が圧倒的に多い。「首を突っこむ」は慣用句なので「を」以外の助詞では置き換えられない。したがって、「首を突っこむ」を含むこの表現でもヲ型が優勢になったと推測される。

Ⅰ-⑤ 「人の悪いところ(が・を)言いたくない性格だ。」

打消の表現「ない」が付いた場合を考える項目である。

全体(535)…ガ 23(4.3%) ヲ 508(95.0%) 両方 1(0.2%) 無回答 3(0.6%)

全体としてヲ型が圧倒的に多い。この結果は、ガ型が優勢のⅠ-①と異なっている。

Ⅰ-⑥ 「海外に行くと日本食(が・を)食べたいと思う。」

「と思う」という語句が付いた場合を考える項目である。

全体(535)…ガ 346(64.7%) ヲ 174(32.5%) 両方 4(0.7%) 無回答 11(2.1%)

50代男性(55)…ガ 25(45.5%) ヲ 30(54.5%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

全体としてガ型が半数強だが、50代男性のみヲ型がわずかに多い。

Ⅰ-⑦ 「当分、映画(が・を)見たくないと思います。」

二つの語句「ない」・「と思う」が付いた場合を考えるための項目である。

全体(535)…ガ 32(6.0%) ヲ 487(91.0%) 両方 1(0.2%) 無回答 15(2.8%)

全体としてヲ型が圧倒的に多い。Ⅰ-①・⑤・⑥・⑦の結果から、打消の表現「ない」が付くとヲ型が用いられやすくなる可能性があると言える。

Ⅰ-⑧ 「書類(が・を)書いていただきたい。」

Ⅰ-⑨ 「この手紙(が・を)読んでいただきたい。」

敬語表現を考えるための項目である。

Ⅰ-⑧全体(535)…ガ 0(0%) ヲ 533(99.6%) 両方 1(0.2%) 無回答 1(0.2%)

全体として圧倒的にヲ型が多い。

Ⅰ-⑨全体(535)…ガ 1(0.2%) ヲ 532(99.4%) 両方 1(0.2%) 無回答 1(0.2%)

全体として圧倒的にヲ型が多い。

#### 4.3.2. Ⅰの考察

##### (あ) Ⅰ-②

藤田(1982)のアンケート調査では「今、とってもフランス語が勉強したいんです。」(藤田 1982:103)のように、強調の語句「とっても」を使った項目を設けた。

この調査ではヲ型が優勢であった。本稿の調査ではガ型が優勢であった。藤田(1982)と本稿で結果が異なった理由を考察する。

まず、動詞について、本稿のアンケートでは「食べたい」を用い、前出の藤田(1982)では「勉強したい」を用いていた。動詞によっては、ガ型を取りやすいもの・ヲ型を取りやすいものとあるため、結果に違いが出た可能性が考えられる。

また、同じ強調の語句であっても前出の藤田(1982)の「とつても」は「勉強したい」という動詞部分を修飾して強調している。一方、本稿の「なにより」は「ケーキ」という目的語部分を修飾して強調している。強調している部分によって、ガ型・ヲ型が異なることについて「われ／＼が普通の心持でいふ時は「お茶が飲みたい」といふが、特に「飲む」ということを強く頭に浮べると、自然に「お茶を飲みたい」といふことになるものだらうと思ふ。」(湯沢 1944:264)という指摘がある。つまり、動詞部分を強調している場合、ヲ型が用いられやすくなるということである。

以上の二点が、藤田(1982)と本稿の調査結果が異なる理由として考えられる。

#### (い) I - ③

I - ①・②の結果から、強調の語句があってもガ型が優勢であることが分かった。「テスト終わりにはマンガ(が・を)思う存分読みたい。」という例文を使ったこの項目でヲ型が優勢になったことから、「読む」という動詞はヲ型と結びつきが強いという可能性が考えられる。ただし、この項目での強調の語句「思う存分」が修飾しているのは「読みたい」という動詞部分である。動詞部分が強調された場合、ヲ型が用いられやすくなることは、4.3.2. の(あ)で指摘した通りである。また、強調の語句がI - ②の「なにより」とは異なることも、この項目でヲ型が優勢になった理由の可能性として考慮しなければならない。

#### (う) I - ⑤・⑦

I - ⑤「人の悪いところ(が・を)言いたくない性格だ。」では、回答者からの指摘に「人の悪いところは言いたくない性格だ。」というハ型が望ましい」というものがあつた。同じくI - ⑦「当分、映画(が・を)見たくないと思います。」では、「ハ型が望ましい」という指摘と、「比較するならばハ型とヲ型になるのではないか」という指摘があつた。

このような指摘があつた理由の一つとして、「肯定文を使うときは、とくに否定文を意識しないで使うことが多いのにたいして、否定文を使うときは、肯定文を意識しやすい。否定文は肯定文を否定したものだから」(野田 1996:214)であつて、「否定文では対比の相手を想定しやすいので、対比の「は」も使われやすいのである。」(野田 1996:214)という指摘がある。つまり、I - ⑤とI - ⑦はともに否定文であるので、ハ型が望ましいという指摘が出たと考えられる。

(8)

(え) I - ⑧・⑨

I - ⑧・⑨はともに敬語表現であるが、I - ⑧はMが特定のものでなく、I - ⑨はMが特定のものであるという違いがある。I - ⑨を、同じ「読む」という動詞であるが敬語表現でないI - ③と比較すると、敬語表現はヲ型と結びつきやすい可能性が指摘できる。

また、I - ⑧とI - ⑨はどちらもヲ型が優勢であった。これは、名詞に焦点がある場合にはガ型がよく用いられ、他のものでなく何々がという表現価値的側面が出る、という藤田 (1982:97)の結論と一致しない。本稿のアンケート調査から分かることは、他のものでなく「この書類」と特定しても、変わらずヲ型が選択されやすいと言うことである。

### 4.3.3. IIの集計結果

II - ① 今日はとてもいい天気です。タロウは学校が終わったらすぐにでも友だちと遊びたいので、思わずこんな風に声をかけてしまいました。

「なあ、野球（ ）したいから、いつもの空き地に来いよ」

Mが特定のものでないとき、状況設定があるかないかでガ型・ヲ型に変化があるかを考えるための項目である。この問題について、I - ①と比較を行う。

全体(535)

I - ①でガ型 (473)…ガ 391(82.7%) ヲ 80(16.9%) 両方 1(0.2%) 無回答 1(0.2%)

I - ①でヲ型(52)…ガ 20(38.5%) ヲ 31(59.6%) 両方 1(1.9%) 無回答 0(0%)

I - ①で両方(5)…ガ 2(40%) ヲ 2(40%) 両方 0(0%) 無回答 1(20%)

I - ①で無回答(5)…ガ 2(40%) ヲ 2(40%) 両方 0(0%) 無回答 1(20%)

Mが特定のものでないとき、状況設定の有無に関わらずI - ①でガ型を選んだ人はII - ①でもガ型を選び、I - ①でヲ型を選んだ人はII - ①でもヲ型を選ぶ。

II - ② 念願の犬を飼うことになったので、ペットショップに行きました。しかし、いざペットショップに行くとたくさんの種類の犬がいて、なかなか決められません。「チワワもかわいいけど、やっぱり柴犬（ ）飼いたいなあ」

回答者が思い浮かべるだけの選択肢の中から一つを選ぶという状況を設定した項目である。

全体(535)…ガ 333(62.2%) ヲ 197(36.8%) 両方 1(0.2%) 無回答 4(0.7%)

40代男性(34)…ガ 17(50%) ヲ 17(50%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

50代男性(55)…ガ 26(47.3%) ヲ 28(50.9%) 両方 0(0%) 無回答 1(1.8%)

全体としてはガ型が半数強である。ただし40代男性ではガ型・ヲ型のどちらが優



勢とは言えない。また、50代男性ではヲ型がわずかに多い。このように、必ずしもすべての性別年代でガ型が多いとは言えない。

Ⅱ - ③ 何気なく立ち寄った本屋で、偶然にもずっと探していた漫画を見つけました。手にとって思わず一言つぶやきます。

「ずっとこのマンガ（ ）読みたかったんだ……！」

Mが特定のものであるとき、状況設定があるかないかでガ型・ヲ型に変化があるかを考えるための項目である。この問題について、Ⅰ - ③と比較を行う。

Ⅰ - ③でガ型(26)…ガ 26(100%) ヲ 0(0%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

Ⅰ - ③でヲ型(507)…ガ 367(72.4%) ヲ 140(27.6%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

Ⅰ - ③で両方(1)…ガ 0(0%) ヲ 0(0%) 両方 0(0%) 無回答 1(100%)

Ⅰ - ③で無回答(1)…ガ 0(0%) ヲ 0(0%) 両方 0(0%) 無回答 1(100%)

Mが特定のものであるときは、Ⅰ - ③でガ型を選んだ人はⅡ - ③でもガ型を選ぶ。ただし、状況設定のないⅠ - ③ではヲ型を選んだ人も、状況設定のあるⅡ - ③ではガ型を選ぶ傾向がある。

Ⅱ - ④ 最近周りの友だちはみんな習い事を始めました。それまで習い事に興味がなかったミエですが、友だちに影響されて習い事に興味を持ちました。

「お母さん、わたし、習い事（<sup>ア</sup> ）やりたいんだけど、」

「だめ。アンタ、飽きっぽいもの。すぐ嫌になるわ」

「飽きないようにがんばるから！とにかく習い事（<sup>イ</sup> ）したいの！」

「習い事っていってもねえ、いろいろあるじゃない。ピアノとか習字とか……」

「んー、そういうのよりも、もっとカッコイイの（<sup>ウ</sup> ）やりたいな」

「ピアノも習字も十分格好いいよ。将来のためにもなるしねえ」

「ピアノも習字もありきたりだもん。どうせならみんながあこがれるような……バイオリン（<sup>エ</sup> ）やりたい！」

「アンタねえ、みんなにうらやましがられたいからって中途半端な気持ちで習い事（<sup>オ</sup> ）やりたいなんて、うまくなれないわよ。もっと自分からやりたいって思えることができるまで、習い事はガマンしなさい」

「……はい」

一連の会話における、ガ型・ヲ型の変化を知るための項目である。

㉗全体(535)…ガ 133(24.9%) ヲ 400(74.8%) 両方 0(0%) 無回答 2(0.4%)

全体としてヲ型が多い。

㉘全体(535)…ガ 421(78.7%) ヲ 112(20.9%) 両方 0(0%) 無回答 2(0.4%)

全体としてガ型が多い。

㉙全体(535)…ガ 320(59.8%) ヲ 212(39.6%) 両方 0(0%) 無回答 3(0.6%)

(10)

40代男性(34)…ガ 16(47.1%) ヲ 18(52.9%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

50代男性(55)…ガ 21(38.2%) ヲ 34(61.8%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

全体としてガ型がやや優勢だが、40代男性と50代男性ではヲ型がやや優勢である。

㊦全体(535)…ガ 343(64.1%) ヲ 187(35.0%) 両方 1(0.2%) 無回答 4(0.7%)

全体としてガ型が半数以上である。

㊧全体(535)…ガ 101(18.9%) ヲ 432(80.7%) 両方 0(0%) 無回答 2(0.4%)

全体としてヲ型が8割ほどである。

#### 4.3.4. IIの考察

##### (あ) II - ②

「柴犬も飼いたい」という、選択肢外の回答が二つあった。なお、この回答をした回答者には、性別・年代・出身都道府県などの共通点はなかった。この回答が出た理由は以下のように考えられる。

〈理由1〉助詞「も」には、並立の用法がある(山田 2004:55)。II - ②では「チワワもかわいいけど、やっぱり柴犬( )飼いたいなあ」とあるように、「チワワ」の後にも、助詞「も」がある。この助詞「も」が、並列の用法として「柴犬」の後に助詞「も」を導いた。

〈理由2〉「どちらも」飼いたい、という話し手の気持ちが「柴犬」の後に助詞「も」を導いた。

##### (い) II - ③

I - ③で述べたように、「読む」という動詞はヲ型と結びつきが強い可能性がある。しかしながら、このII - ②の結果から、状況設定がされた場合、ある特定のものを指すときは、ヲ型と結びつきの強い動詞であってもガ型を用いるという認識が多くの人々の間にあると考えられる。

また、I - ⑧・⑨では、名詞の特定の有無に関わらず、どちらもヲ型が選択されやすいという結果になったが、II - ③の結果はこれと矛盾する。I - ⑧・⑨とII - ③の違いは、状況設定があるかないかである。前者には状況設定が無く、後者には状況設定があった。つまり、状況設定がある場合には、名詞に焦点がある場合にはガ型がよく用いられ、「[他のものでなく何々が]という表現価値的側面が出る」(藤田 1982:97)と考えられる。

##### (う) II - ④

㊦「習い事」、㊧「習い事」、㊨「習い事」と同じ言葉が続いている。このとき㊦ではヲ型が優勢であり、㊧ではガ型が優勢であった。これは、同じ言葉を繰り返すと

強調などの特別の効果が出る場合が多いからであると考えられる(益岡・田窪 1992:172)。したがって、このときの助詞「が」は強調を表わす可能性がある。ここで同じ繰り返しならば、3 回目の㊦もガ型が優勢になることが予測されるが、㊦ではヲ型が優勢であった。このときヲ型が優勢であった理由は以下のように考えられる。

〈理由 1〉一般に、助詞「が」は、同じ言葉に対して 2 回続けて用いることが避けられる

〈理由 2〉ここでの助詞「を」も強調の表現である

また、㊦「習い事」と㊧「カッコイイの」・㊨「バイオリン」を比較すると、㊦よりも㊧・㊨ではガ型を選ぶ回答者が増えている。つまり、㊦から㊧・㊨と具体的なものにすることで、ガ型が用いられやすくなっているということである。このことから、ガ型は具体的なものを指して言う時に使われると認識されていると言える。しかし㊧と㊨を比較すると、年代や性別によって優勢なのがガ型かヲ型かわわってきている。つまり、M を具体化するにつれて、ガ型が優勢になる傾向があるが、全ての場合においてそうなるとは言えない。

#### 4. 3. 5. Ⅲの集計結果

Ⅲ A「水が飲みたい」・B「水を飲みたい」のうち、どちらが正しい表現だと思いますか。アルファベットで教えてください。

また、その理由は何ですか。以下の項目から選んで数字に丸を付けてください。

<理由>

1. 一般的だから。
2. 伝統的だから。
3. 本来の日本語のようだから。
4. 論理的だから。

全体(535)…ガ 241(45.0%) ヲ 285(53.3%) 両方 6(1.1%) 無回答 3(0.6%)

50 代の女性(51)…ガ 28(54.9%) ヲ 23(45.1%) 両方 0(0%) 無回答 0(0%)

全体としてヲ型がやや多いが、50 代女性のみガ型がやや多い。また両方を選んだ回答の中で、「状況によるので、A・B のどちらが正しいとは言えない」という回答が 4 例、「気持ちの強さで異なる」という回答が 1 例あった。

・ガ型が正しいとした理由

一般的 151(62.7%) 伝統的 4(1.7%) 本来の日本語調 36(14.9%) 論理的 45(18.7%) 無回答 2(0.8%) 自己作成 3(1.2%) 複数 0(0%)

自己作成による理由は、「その他」・「表現が強いから」・「より強調されている気がする

るから」の三つである。

・ヲ型が正しいとした理由

一般的 68(23.9%) 伝統的 0(0%) 本来の日本語調 96(33.7%) 論理的  
120(42.1%) 無回答 0(0%) 自己作成 0(0%) 複数 1(0.4%)

複数回答は、「本来の日本語調」と「論理的」の二項目に回答がなされていた。

#### 4.3.6. Ⅲの考察

今回のアンケート調査では、わずかな差ではあるが、ヲ型が正しいとする人の方が多かった。これは、教育現場でガ型が正しいとされていることと、1955年に行われた国立国語研究所の調査結果とは異なっている。ただし、国立国語研究所の調査では年齢が下がるごとにヲ型が優勢になるという予測を立てていた。今回のアンケート調査では、ヲ型が正しいと思う回答者は10代で54.2%、20代で53.8%、30代で53.8%、40代で55.6%、50代で49.1%という結果が出た。40代のところは若干割合が高くなっているが、全体的な傾向としては、国立国語研究所の予測と矛盾しない。

興味深いのは、2の「伝統的だから」という理由を選んだ回答者が全体の0.7%しかおらず、しかもその回答者は全てガ型を選択していることである。先述の国立国語研究所の調査ではガ型における結果しか述べられていないが、それでも「伝統的」を理由に選んだ人は24%もいたのである。「伝統的」とは、日本語の中で古くから育まれてきたもの、ということだろう。『日本語文法大辞典』（明治書院 2001）の助詞「が」の項目に、「が」の後に心情・可能などの意味の語が続くとき明治以降「が」の代わりに「を」の使われることがあるようになった。これを古く西欧語の影響によってできた語法という解釈もあった」とあることから、ヲ型は西欧の言葉の影響を受けてできたものだとする説があったことが分かる。逆に言えば、「伝統的」なのはガ型だという認識が一般にあったということである。このことから、国立国語研究所の調査や本稿のアンケート調査で、ガ型に「伝統的」という理由が多く見られることの説明が付く。

しかし、ヲ型は西欧の言葉の影響を受けてできたものだという説が誤っていることは、松村(1951)で明らかになったところである。国立国語研究所の調査は1955年のものであり、本稿のアンケート調査は2011年のものである。一つの可能性として、松村(1951)以降、ガ型が伝統的だという考えが薄れていったのではないかという可能性が考えられる。もちろん、国立国語研究所の調査と本稿のアンケート調査は、調査対象が異なっていることも考慮しなければならないが、可能性として指摘しておく。

さらに、本稿のアンケート調査でガ型を選んだ人の理由のうち、最も多いのは「一般的だから」であるが、ヲ型を選んだ人の理由で最も多いのは「論理的だから」となっていることも興味深い。「一般的」というのは広く使われているということである。「論理的」というのは、例えば「水を飲む」という表現があるから「水を飲みたい」が正しい、というように、理由付けて説明できることである。

国会会議録の調査から、決してガ型が「一般的」ではないことが分かった。では、何故ガ型は「一般的」と思われているのだろうか。

Ⅲでガ型を選んだ回答者から、次のようなコメントがあった。

- ・「水が飲みたい」と言うのととても要望が強く感じる
- ・「強い気持ちの表現の場合に「が」を使うことが多い
- ・「強調・特定したい時は「が」をより多く使用します」

以上のコメントから、助詞「が」は強調を表わすと認識されているということが分かる。一般的に、強調して表わされたものは、自然と記憶に残る。そのため、実際にはヲ型に多く触れていたとしても、印象の強いガ型が記憶に残り、ガ型が「一般的」と認識しているのではないだろうか。そのために、ガ型が正しいとされた最たる理由が「一般的」となったのではないか。

また、ヲ型を選んだ人の理由で最も多いのは「論理的」だが、これは国立国語研究所の調査と同じ結果である。「一般的」がヲ型を選んだ理由の中で少なくなっているのは、ガ型が多くなっていることの裏返しだと考えられる。つまり、ヲ型は多く使われていても印象に残らないので、一般的だと認識されていないということである。何故、ヲ型を正しいとした理由で、「本来の日本語調」を選んだ人が「論理的」を選んだ人より少ないのかは、検討してみたが、よく分からなかった。ただ、「水を飲む」という表現があるから「水を飲みたい」が正しい、という根拠付けによって「論理的」という理由が選ばれたと考えることができる。その場合、「本来の日本語調」を理由として積極的に選ぶ必要はないであろう。その結果、ヲ型を正しいとする理由で「論理的」が最も多くなったのだと考えられる。

#### 4.3.7. 全体の考察

このアンケート調査で明らかになったことを以下に挙げる。

##### (a)ガ型・ヲ型で地域性があるかは、よく分からない

A 地方出身の人は必ずこう答える、という傾向は見られなかった。出身都道府県別でもその傾向はなかった。また、ある回答者から「自分の出身地域では助詞「ば」で補うことができるので、今回は標準語的に考えた場合で回答した」という指摘があった。つまり、このアンケートに回答者が普段使っている、方言を含む表現が全

て反映されているとは言えない、ということである。

- (b)「読む」などのように、ヲ型を取りやすい動詞がある
- (c)「首を突っこむ」のような慣用句は助動詞「たい」がついても、助詞は変化しにくい
- (d)敬語表現はヲ型を選びやすい
- (e)状況設定があり、かつ、名詞に焦点がある場合にはガ型がよく用いられる
- (f)目的となる名詞が具体化するにつれ、ガ型が選ばれやすくなる
- (g)全体として、わずかな差ではあるが、ヲ型が正しいと思っている人の方が多い  
ヲ型が正しいとするのは全体の 53.3%である。ヲ型が正しいと思っている理由は、多い順に、「論理的」・「本来の日本語調」・「一般的」が挙げられる。また、ガ型が正しいとするのは全体の 45.0%である。ガ型が正しいと思っている理由は、多い順に、「一般的」・「論理的」・「本来の日本語調」・「伝統的」であった。

## 5. おわりに

学校教育の場ではガ型が正しいとされているが、その理由は決して明確とは言えない。今回、話し言葉の実態を見るために国会会議録を調査したが、ヲ型の方が多く使われていた。一般の意識を知るために行ったアンケート調査では、ヲ型が正しいと考えている人の方が若干多いことが分かった。

学校教育の場ではガ型が正しいとされているが、実際にはヲ型が多く使われていてヲ型が正しいと考えている人の方が多いという、この食い違いについてはまだよくわからないことが多い。それでも、本稿のアンケート調査は一般のガ型・ヲ型の意識を知る上で有意義であろう。この調査結果が今後の研究に役立てられることを望みつつ、本稿を締めくくる。

## 謝辞

本研究が形になったのは、アンケート調査に快く回答して下さった皆様のおかげです。協力していただいた全ての方々に、心から感謝の気持ちと御礼を申し上げて、謝辞にかえさせていただきます。

## 参考文献

- ・木枝増一. 1931. 『高等口語法講義』 目黒書店
- ・国立国語研究所. 1956. 「語形確定のための基礎調査」『国立国語研究所年報七』
- ・三省堂編輯所. 1948a. 『中等文法 口語』 三省堂
- ・三省堂編輯所. 1948b. 『教師用参考書』 三省堂

- ・野田尚史. 1996. 『新日本語文法選書 1 「は」と「が」』くろしお出版
- ・橋本進吉. 1938. 『新文典別記 口語編』富山房
- ・藤田正春. 1982. 「「水が飲みたい」か「水を飲みたい」か—初級日本語におけるその教育的選択—」『筑波大学人文科教育研究』9号
- ・保科孝一. 1911. 『日本口語法』同文館
- ・益岡隆志・田窪行則. 1922. 『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
- ・松村明. 1951. 「「水を飲みたい」という言い方について」『江戸語東京語の研究』東京堂
- ・三矢重松. 1926. 『高等日本文法』明治書院
- ・文部省. 1944a. 『中等文法 一』
- ・文部省. 1944b. 『編纂趣意書』
- ・文部省. 1947. 『中等文法 一』
- ・山田敏弘. 2004. 『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版
- ・湯沢幸吉郎. 1944. 『現代語法の諸問題』, 日本語教育叢書日本語興振委員会
- ・吉岡郷甫. 1902. 『日本口語法』東洋図書
- ・吉澤義則. 1932. 「所謂『ヲ』に通ずる助詞『ガ』について」『金澤先生還暦記念東洋語学乃研究』三省堂

[おかだ・よしみ 愛知県立一宮西高等学校常勤講師 2012年3月卒業]

---

<sup>1</sup> なお、引用文中の「第1回調査」とは、調査計画にもとづいて行われた小規模の準備調査のことである。

<sup>2</sup> ・国会会議録検索システム [http://kokkai.ndl.go.jp/KENSAKU/swk\\_startup.html](http://kokkai.ndl.go.jp/KENSAKU/swk_startup.html)

最終確認日：2011/12/21

<sup>3</sup> 辻新六・有馬昌宏. 1987. 『アンケート調査の方法—実践ノウハウとパソコン支援—』, 朝倉書店. p55

<sup>4</sup> 以下、数値の単位は「人」とする。

<sup>5</sup> 以下、M は目的語を指す。